

福井県立武道館(1/2)

が武道! 老いも若きも一緒に

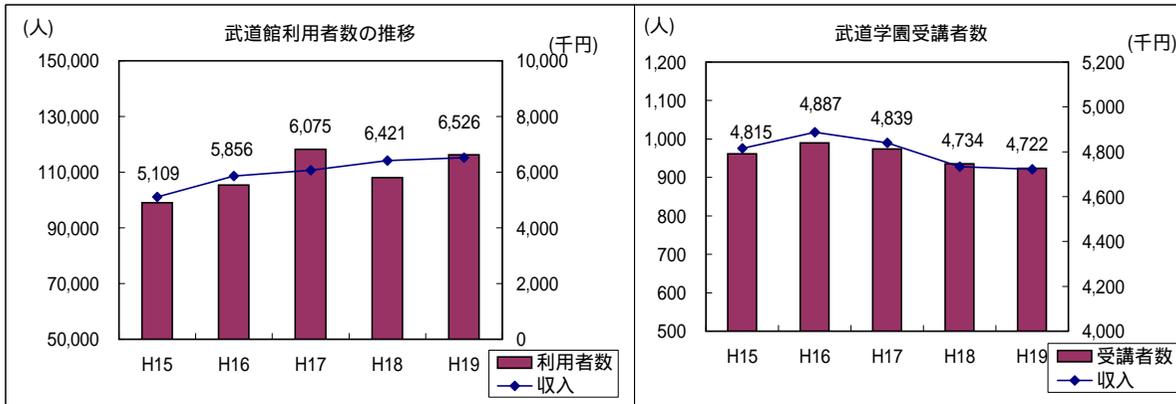
所在地	福井市三ツ屋町8-1-1		
設置年月日	平成元年6月18日		
施設の種類	スポーツ施設	施設管理主体	県
設置の目的	武道の振興を図り、県民の心身の健全な発達に寄与する。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造、地上3階、延床面積13,987㎡、柔道大道場(柔道場4面)、柔道小道場(柔道場2面)、剣道大道場(剣道場6面)、剣道小道場(剣道場2面)、弓道(近的射場12人立、遠的射場6人立)、相撲(試合場、練習場)、多種目場、トレーニング室、会議室1~5		
職員数	館長(非常勤)1人、職員7人、アルバイト1人、計9人		

利用状況等

	H15	H16	H17	H18	H19
利用者数(人)	99,010	105,403	118,227	108,019	116,288
武道学園受講者数(人)	961	990	974	935	924
大会・審査会使用回数(日)	215	246	280	267	275

利用者負担(利用料金)等

使用料	学生(専用せず)	60円
	一般(専用せず)	140円
	柔道大道場(専用)(一般)	13,000円
	剣道大道場(専用)(一般)	18,000円



利用状況の推移

福井県立武道館は、当県の武道振興の中核となる施設であり、全国大会や北信越大会など大規模な大会から、練習の場としての個人利用まで、年間約11万人、開館以来延べ176万人が利用しています。19年度は北信越国民体育大会があったため、対前年比7.7%の増となり、平成16年度以降、毎年10万人を超える利用者があります。また、県外の学校や武道団体等の合宿も多数行われ、福井県のイメージアップに役立っています。

施設の特徴

柔道、剣道、弓道、相撲については、それぞれ独立した専用公式試合場を有しています、加えて多種目競技場は空手道、なぎなた、銃剣道等の公式試合場として使用することができ、本県の武道振興の拠点となっています。

武道学園の開催

武道学園(柔道、剣道、弓道、空手道、なぎなた、銃剣道、相撲の各教室)は、武道七道を通じて県民の健康増進や青少年の健全育成はもとより、日本文化・伝統を体験できる場、心の教育の場として貴重な存在となっています。

各種研修会の開催

指導者資質向上研修会、地域社会武道指導者研修会、地方青少年武道錬成大会では中央の講師を招き、県内の武道の普及振興に寄与しています。

武道学園(空手道教室)



武道学園(剣道教室)



県立武道館ホームページ

<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/budoukan/>

平成19年度の特徴について

事業実績

大会・審査会の実施など、年間約11万人(前年比7.7%増)の利用者がありました。また、武道学園は、平成19年度には924人(前年比1.2%減)の受講があり、県民の健康増進と青少年の健全育成に寄与しました。

研修事業を年6回実施した結果、全体で342名の参加があり、指導者育成、青少年の育成、競技力向上に寄与しました。

機関紙「武道」の発行(平成19年6月)や武道館のホームページ更新により、武道および武道館に関する情報を提供しました。

平成18年度に引き続き、県内の各武道練習場の所在地や武道愛好家の現状・推移の把握のための武道人口調査を実施し、活動場所や小学生・中学生・高校生・一般別の競技人口を把握しました。その結果はホームページ上に掲載し公表するとともに、スポーツ行政の資料として活用を図りました。(19年9月)

利用案内パンフレットの作成、館内での施設利用状況や利用方法の掲示、アンケート等の実施を行い、より利用しやすく、ニーズにあった施設にするための改善に努めました。

福井県立武道館(2/2)

行政コスト計算書(平成19年度) (単位 千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	76,280	32.9%	104.5%
	退職給与引当金繰入	84	0.0%	-18.5%
	計	76,196	32.9%	103.8%
物にかかるコスト	物件費	52,992	22.8%	108.4%
	維持補修費	10,570	4.6%	176.5%
	減価償却費	92,397	39.8%	100.1%
	計	155,959	67.2%	106.0%
その他	公債費(利子)	0	0.0%	0.0%
	その他	21	-0.1%	0.8%
	計	21	-0.1%	0.8%
合計		232,176	100.0%	104.1%
収入	利用料等収入	11,471	4.9%	100.8%
	その他収入	429	0.2%	96.8%
	一般財源	220,276	94.9%	104.3%

バランスシート(平成20年3月31日現在) (単位 千円)

借方			貸方		
資産	前年比		負債	前年比	
有形固定資産	4,648,275	98.2%	固定負債	55,601	99.8%
うち土地	(1,660,544)	100.0%	うち退職手当引当金	(55,601)	100.8%
うち建物	(2,775,591)	97.1%			
投資等	0	-	流動負債	0	-
流動資産	0	-	正味資産	4,592,674	98.2%
計	4,648,275	98.2%	計	4,648,275	98.2%

主な指標 (単位: %, 円/人)

	H19	H18	前年比
県民1人当たり有形固定資産額	5,701	5,785	98.6%
県民1人当たり将来負担額	68	68	100.2%
世代間負担率	98.8	98.8	100.0%

バランスシート、行政コスト計算書の特徴	<p>行政コスト計算書の特徴</p> <p>物にかかるコストのうち減価償却費の割合が高くなっています。平成19年度は、維持修繕費が前年比176.5%と多くなっていますが、この原因は、直流電源装置バッテリー修繕等の施設管理用機器の修繕を行ったことによるものです。</p> <p>物件費のうち、燃料費と光熱水費で約130万円、約25%と、維持管理に要する経費の大きな部分を占めます。</p> <p>県民1人当たりの負担額は278円となり、対前年度比4.6%の増となりました。</p> <p>バランスシートの特徴</p> <p>有形固定資産のうち、建物が全体の6割を占めています。</p> <p>資産が1.8%減少した要因は、建物の減価償却が進んだことによるものです。</p>
施設の目的上、管理運営上、主要な事業	<p>武道館 [H20予算額: 約540万円]</p> <p>本県の武道振興の拠点として、使いやすく、安全な貸館業務を行っています。</p> <p>本県の武道の情報発信基地として、県内の「武道館マップ」の作成や武道人口調査等を実施し、武道人口を増加を図っています。</p> <p>武道学園 [H20予算額: 約500万円]</p> <p>県民の健康増進と体力づくり、青少年の健全育成を目指しています。</p> <p>研修会等を開催し、県内指導者の資質向上や武道の普及振興を行っています。</p>
今後の課題	<p>維持修繕費については、当館が建設されてから19年が経過していることから、老朽化が進み、施設・設備の修繕箇所が多くなってきており、適切な維持管理が必要となっています。</p> <p>物件費については、利用者数の増加や、夏季・冬季の気候条件によって管理運営費が大きく左右されますので、サービスの低下につながらない経費の削減方法を検討していく必要があります。</p>
今後の事業方針、取り組み内容	<p>経費削減の取り組み</p> <p>維持修繕費の軽減については、修繕年次計画を立て、計画的に不良箇所を修繕するとともに、軽微なものは職員で対応し、経費の軽減に努めます。</p> <p>物件費については、利用者に省エネ、省資源を呼びかけ、光熱水費・燃料費の軽減に努めます。</p> <p>利用者増加への取り組み</p> <p>休館日の柔軟な対応、開館時間の変更など、県民のニーズに合った利用しやすい施設づくりをめざします。</p> <p>アンケート等により、利用者の意見を吸収し、取り入れられる体制をさらに充実させ、県民の利便性の向上を図ります。</p> <p>県の武道の情報発信基地として、武道に関する情報収集・提供、武道に関する調査・研究をすることにより、県民に武道を理解してもらうとともに、武道人口の増加を図ります。</p> <p>各武道団体と連携し、武道団体のネットワークづくりや武道に関する相談などへの対応体制を充実していきます。</p> <p>武道館ホームページをさらに充実し、県民がさらに武道に関心をもってもらえる内容にしていきます。</p>

県民1人あたりのコスト負担の状況

